

オリンピックの@がSUN SUN

川崎美紀の  
SMILE通信

きょうも  
おもてなし  
日和



Vol.29 一生に一度の東京 2020

されていると聞いています。強制されるのはおもしろくないですが、参加してみることに何らかの楽しみややりがいをみつけられると、忘れられない経験として後々まで記憶に残るのではないかと思います。

せっかくの自国開催です。特に若い世代の人たちには、新しいものやことや人に触れる好機です。

輝く3つのメダル、金を胸に下げる人は……

先日、東京オリンピックで授与される本物のメダルを見る機会がありました。警備員さんが現れ、少しすると金、銀、銅3つのメダルが出てきて展示されました。

とてもきれいな輝きを放ち、思っていたよりも大きく、重そうな感じ

Once in a life time、一生に一度だと思ふことは、一生のうちどれくらい巡り合えるのでしょうか。

数年前、滝川クリステルさんの「お・も・て・な・し」のプレゼンで開催が決まったオリンピック・パラリンピックは、まさに一生に一度の出来事になるのだと思います。

日本で、東京で、すぐそばでいよいよ来年開催！

オリンピックは4年ごとに各地で開催されているし、冬季大会も含めたら2年ごとにあちらこちらで行われるスポーツイベントの一つに

でした。ちょうど買い換えのタイミングだった私の携帯電話も供出したので、おそらくどこかに使われているはずですよ。

3つ並べてみると、やっぱり金がいいなと思います。このメダルを胸に下げ、晴れの舞台で表彰される人はどれだけ誇らしいか、その頑張りは讃えられて然るべきものだと改めて思いながら、しばし見入りました。

清掃への質問もあがった 団長セミナー

この夏、Chefs de Mission Seminar (シェフ・デ・ミッションセミナー：団長セミナー)と呼ばれる会合のお手伝いをしました。

開催まで1年をめどに、オリンピック、パラリンピックに選手を送

りません。そう、そんなに声高に騒ぎ立てるほどの珍しさでもない、冷静に考えてみるとそうなのです。ですが、日本で、東京で、すぐそばで、と考えると、これはめったにないチャンスです。

選手として参加することはほぼ絶望的ですが、選手以外で関われる、それこそ once in a life time のチャンスです。56年前、前回の東京オリンピックを経験している世代も確かにいます。その当時、10代だった人もいます。

いまの10代、都立高校の生徒は積極的なボランティア参加をうなが

る国々から担当者が集まり、選手村や移動手段、食事、ドーピング、開会式、閉会式など大会運営に関することを日本側のそれぞれの担当者から説明を受け、また各国の要望を伝える、合同事前説明会のようなものです。

全体でも国ごとでも、いろいろな説明がなされていました。暑さ対策や選手村内の居住性向上などに、新しい技術や試みも多数取り入れられるようです。そして、現金な話ですが各国負担分はこの日までに支払ってください、というお支払いについての周知もありました。

説明のなかで、「選手ファースト」「選手を中心に考える」「選手が主役」などという言い方がしばしば聞かれ、その流れで、宿泊先での清掃



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

について質問が出ていました。

競技時間から逆算してトレーニングをして調整をして、部屋で休んでいるときに清掃が来ると十分な睡眠が取れないことになる。清掃の時間をあらかじめ変更してもらうことは可能か？あるいは指定してお願いすることは可能か？

とても具体的で現実的な質問です。思わず身を乗り出して聞きました。清掃する方もしてもらう方も、ストレスがないほうがいいですね。

こうした要望が、然るべき手順を踏んで、実際に選手の宿泊先を清掃するみなさんのもとへ届くのでしょうか。もしかすると、選手の部屋を掃除するなんてことも once in a life time なのかもしれません。

多彩なボランティア、多彩な参加国！

また、今回は多くのボランティア

さんとも一緒に働きました。老若男女、バラエティー豊かな方々が力を貸してくれました。

ある方は、スペイン語が得意、分担の国名を見て、「私がこちらを担当した方がいいと思います」とスペイン語圏の国々を進んで担当してくれました。そうすると、やはりうまく事が運びます。

その方は少しお年が上の方でしたが、嬉々として仕事をしていました。楽しいだろうなあと思いながら、こんな光景が目の前で繰り広げられていることに、私も幸せな気持ちになりました。

反面、ことごとく文句をいう方もいました。ここはこうして、あそこはこうしたほうがいい、指示は同じ人が出さないとダメ、などと評論家になっていました。

ダメを出すのは簡単です。協力して仕事するのは楽しいことでもあ

り、大変なことでもあります。自己主張ばかりでもダメですね。こういうボランティアさんは文句ばかり言っていてつまらない1日だろうなあ、と思いました。

団長セミナーへの参加国はオリンピック194、パラリンピック104か国にのほりました。世界には、初めて名前を聞く国や名前は聞いたことがあっても場所がわからない国など、知らない国がたくさんあります。

例えば、ブルキナファソ、サントメ・プリンシペ、ガイアナ、ご存知でしょうか？のちに調べてみると、西アフリカ、ギニア湾にある島、そして中米の国々でした。

世界地図か地球儀が欲しいと思いました。こんなにもたくさんの国から選手が集まる東京2020、心から楽しみにしています。



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>  
国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。